

秋田県
退職校長会

会報

題字 秋田師山書（秋田市会員）

第 91 号

秋田市手形学園町1-1
秋田大学教育文化学部
同窓会旭水會 内

平成30年8月1日 発行

秋田県退職校長会



非連続の連続

——「道徳」の教科化に思う——

秋田県退職校長会会長 佐藤 俊彦

○ 羅生門的接近法など

昭和四十六年、私は前年度に文部省指定の道徳の公開研究会を終えた本荘北中学校に勤務していた。この学校の道徳への取り組みには素晴らしいものがあつた。

基本的には、小集団バズ学習を通して道徳を学ぶもので、三々四人の小グループでバズセッションをし、価値に対する議論を行う。それを全体討議にもつていくという授業形式であつた。少人数の議論だと、自分だけお客さんを決め込むという訳にはいかず、生徒全員が一斉に議論に入る様はすごかつた。そして全体討議に入っても、その熱は冷めやらず、涙しながら発言する生徒もいて、最後には教師までもが涙するという思いのこもった授業を何度も見せてもらった。教室が、本気ムードにあふれていた。これが、本物の授業であると確信した。そこには、授業で勝負する本物の教師と、真面目に生きる生徒がいた。

○ 今年から「特別の教科 道徳」になった

平成三十年度、小学校では初めて文部科学省検定の教科書を使用しての道徳が始まった。「総則」や「ねらい」を読んでみても、従来のものと少しの変わりもない。しかし、これまでの取り扱いに問題があるとの判断から、年三十五時間の授業時間の確保と、いじめ対策を意図して、「強い枠をはめた」ということだろう。その一つの条件が検定教科書である。昨年の六月、

県立図書館で実物を見たが、正直な感想は「急いで作った感」が否めなかつた。「発問」の中には、価値まで届かないのではないかと思われるものもあつた。「考え、議論する道徳」を標榜する文科省のねらいは、授業者の肩に大きくのしかかる。資料の解釈が、「発問」の組み立てを左右することになるだろう。

○ 生き方を「問う」ということ

教育は「覚醒である」と言つたボルノウは、「問うことの大切さ」に触れている。「生き方」を問うのである。しかし「目覚めさせる」には、揺さぶり起こすという外からの刺激が必要である。それが「発問」を含む教師の働きかけである。そこには、子どもたちを「本気にさせる工夫」が必要であり、教師の授業力が発揮される大事な部分でもある。子どもが自ら「その気に」ならないと、学習として動き出さない。

教師の研修も同じことが言える。教師の自主研修を発進させるのは、その教師自身の「自らに問う姿勢」であつて、より良い教師をめざす問いの中に、「真の研修」は存在する。更に、周囲に好ましい刺激となる人物が存在しておれば、この教師の自主研修は質の高いものになるだろう。

大きな節目の今年、十一月八日・九日に第五十四回全国小学校道徳研究大会が秋田市で開催される。是非、「秋田の授業力」を全国に発信してほしいものだ。

一昨年の六月三十日、七夕さまが近づいてきたので幼稚園の孫と竹を取りに出かけた。誰かにもあげようと思って二本取ってきたが、今時、家庭でそんなことをしている人はいないよ、という家族の声。かくして行き場を失くした竹が一本、いつまでも軒下に立てかけられたままとなってしまった。

ところで私たちの暮らしは、伝統や文化、季節感を大切にしながら様々な年中行事で彩られ、その一つ一つの行事には深い意味が込められていて、昔から親が子に、年長者が若者に教えることによつて受け継がれてきた。そして子どもたちは、他の人と共有できる体験を通して自分を取り巻く様々な物事を学び、日本人

の心豊かな精神に触れ、地域に生きる喜びを感じながら成長してきた。しかしその一方、地域に少子高齢化の波が押し寄せ、伝統的行事を受け継ぐ担い手がなくなり、いつの間にか廃れていく行事が少なくないのもまた事実である。だがそんな中にも、学校が地域と連携して伝統の灯を守るために頑張っている姿に意を強くしながらも、学校の統廃合によつて地域から学校が消え、地域にとつての「オウホの学校」という意識が次第に希薄になっていく現実にも直面している。

ひとつ



秋田県退職校長会
副会長 小林 茂

行き場を失くした二本の竹から

少し昔のことであるが、退職後、社会教育アドバイザーとして管内の学校や教育委員会を訪問し、懇談する機会があった。「地域活動のスタートに当たっては、電話一本、紙一枚だけで済ますことは失礼にあたる。学校から地域に向いて行くのが礼儀であり基本姿勢である」「子どもは小さい頃、いかなる教育を受けてきたかが今後の成長にとつて極めて重要である。体験を通さないと子どもの五感は育ってこない」などと、地域連携への思いや体験活動の重要性を熱く語る校長先生の話に共感を覚え、また、「学校は敷居が高いものと思っていたが、計画についていろんな所にお願いに回っていると、学校ほど協力的ですぐ対応してくれるところがないということが分かった」と話す婦人会長さんの学校に寄せる期待感に、我が意を得た思いがした。

さて秋田県は、全国に誇る「ふるさと教育」の先進地である。学校は地域と一体となつて様々な実践を積み重ねて劇的に変わり、子どもたちは素晴らしい成長を遂げてきた。そんな実績を基盤に「ふるさと教育」は今、ふるさとの未来を切り拓く人材の育成を図る「ふるさとキャリア教育」の更なる充実・進化を掲げ、秋田の教育をガッチリと支えている。

平成三十年度新入会員の紹介(敬称略)

〔鹿角〕

瀬川 正展 田中 節夫 安保 範子

〔大館北秋〕

青柳 正隆 木立 亨 田中 真愛

小松 大二郎 立石 隆博 三浦 玲子

根田 敬一 杉淵 富喜郎 長岐 祐輔

滝内 金悦 津谷 義仁 花岡 郁男

山田 俊逸 今泉 静子 鳴海 英晃

〔能代市山本郡〕

渡邊 一夫 佐藤 勝明 三浦 清美

板倉 和也 牧野 洋悦 吉田 卓弥

渡邊 清彦 菊池 信和 鈴木 誠孝

〔男鹿市〕

近藤 勘一 栗森 貢 丸山 岳人

進藤 吉彦 鈴木 雅彦 小松 忠

中川 真人 佐藤 博英 六郷 博志

〔潟上市・南秋田郡〕 工藤 素子 佐藤 淳

小松 忠 相澤 孝一 中島 眞里子

〔秋田市〕 後藤 由美子 〔由利本荘・にかほ〕

佐藤 淳 島山 修 須田 晃司

伊東 金一 小坂 晃 〔大曲仙北〕

藤本 竜伸 高橋 充 藤本 竜伸

高橋 宗生 柴田 衛 高橋 宗生

井上 一彦 栗林 守 井上 一彦

〔横手市〕 佐川 俊也 酒井 浩

上田 斉 若松 朋也 吉田 聡

〔湯沢雄勝〕 高橋 淳治 高橋 淳治

高橋 良二 門脇 博 寺田 薫

菊地 眞喜夫 小嶋 達夫 鈴木 慎二

平成30年度 総会・理事会 開催 H30.5.10(木) 協働大町ビル

理事会では総会に提案する議案等を審議。若干の文言の修正や意見交換等がなされたが異議等はなく、全議案が承認された。

総会では、お亡くなりになられた会員および全連退戸張会長へ黙祷を捧げた

後、初めに千葉昭会長の挨拶があった。



千葉昭会長（顧問）

会長からは昨年度の事業を振り返りながら、特に秋季研修大会での佐藤前義務教育課長の講話や本会会員である高畑氏、小野寺氏の実践発表等示唆に富んだお話を伺えたことに対して、改めて感謝の言葉が述べられた。また、昨年度の全連退の年間紀要の中に本県の佐藤昭二氏が「会員の心のメッセージ」に寄稿なされていることの紹介もあった。

結びに、本年度の本県開催の東北大会に向けて実行委員会を立ち上げ準備していること、さらには平成三十一年度には本県退職校長会が結成五十周年を迎えることなどに触れながら、役員改選の年でもあり、議事の審議への協力をお願いする言葉で締めくくられた。会長の挨拶に続いて三名のご来賓の方々から祝辞を頂戴した。



眞壁県教育委員会教育次長

初めに県教育委員会眞壁聡子教育次長からは、県の教育の充実・発展および地域の様々な活動への貢献等に対する感謝の言葉が述べられたのち、県の施策について大きく次の3点について話された。

①キャリア教育の充実
問いを発する子どもの育成と地域に根ざし

たキャリア教育の充実を2つの大きな重点と考えている。その中で、職場体験をより充実したものにするよう県内の企業リストを8月をめざしてウェブに公開する予定。このことは、若者の県内就職にも結びつくものと考えている。

②秋田の教育資産を活用した海外交流の促進
米田教育長がタイで講演。その後タイからの訪問依頼があり、四月にはタイの職員8名が来県。五月にはタイのクリスチャンカレッジから招かれ、秋田の教育について自身が講演した。秋田の教育が国外にも浸透してきている現れであり、これも先達のお陰である。

③教員採用について
二百人から三百人の先生の退職が十年間ほど続く見通し。そのため、小中学校の教員採用数は前年比プラス四十名の小学校百十名、中学校五十名の計百六十名を募集。

また、秋田県の採用試験は難しいとの声もあり、試験の在り方や内容を改善する予定。

なお、本県出身の他県に勤務する教員の採用についても論文を課していたものを一次試験免除になることについての説明もあった。

ベテラン層の指導技術を若い先生方にどう伝えていくかが本県の課題の一つであり引き続きお力添えをとの言葉で話しを締めくくった。



佐々木県小中学校校長会

次に、県小・中学校長会を代表して佐々木哲会長（当日は会長立候補者）から挨拶があった。四月から現在までの各小・中学校の様子について

紹介するとともに、県内の学校数が、小学校が前年比マイナスイナス三校の百九十八校、中学校がマイナスイナス二校の百十三校であること、また義務教育学校が二校、小中併設校が四校、小中一貫校が二校であるとの情報も合わせて伝えてくれた。課題として、職員の高齢化に伴うベテラン教員のモチベーションの高揚によ

る学校の活性化と学習指導要領の全面改訂に向けた準備を挙げていた。さらに、来年の平成三十一年度は六月に中学校が東北大会、十月に小学校が全国大会を控えており、その準備にも取り組んでいることが紹介された。



野中県退職公務員連盟会長

続いて県退職公務員連盟の野中和郎会長の挨拶があった。連盟が今年で七十周年を迎えることから、昭和二十二年に誕生した退職公務員連盟の歴史について触れながら、①年金制度の安定化と②公務員であったことを基盤にした社会貢献活動の推進という二つの柱についての説明があった。また、団塊の世代が七十五歳になる二千二十五万問題、さらにはその先にある八十歳以上が全体の約十四%になると予測される二十四年問題にも言及し、七十周年を迎えて原点に立ち返ることの大切さを強調された。

なお、ほかに来賓として県教育協会伊藤薫会長にもご臨席いただいた。

役員は昨年度、任期途中での改選があったが、二年任期の年ということで、今年度改選が行われた。詳細は6ページに掲載した。

また、役員として永年職責を担われてきた千葉昭氏、佐川眞理子氏に佐藤俊彦新会長より感謝状が贈呈された。

平成29年度 特別会計決算書 秋田県退職校長会（平成30年3月31日迄）

収入総額	1,324,269円
支出総額	601,231円
差引総額	723,038円

【収入内訳】

1 前年度繰越金	1,324,263円
2 研究紀要準備金	0円
3 東北大会準備金	0円
4 利子	6円
合計	1,324,269円

※上記の残額723,038円については、別冊「特別会計」用の通帳に、保管中である。

平成29年度 会計決算書

収入総額 2,285,012円
 支出総額 2,245,327円
 差引残額 39,685円

【収入の部】

(単位：円)

項 目	本年度決算額	本年度予算額	増 減	付 記
1. 負 担 金	2,130,000	2,143,500	13,500	1,500円×1,429人 (納入予定数1,455人)
2. 特 別 協 賛 金	0	0	0	
3. 繰 越 金	141,508	141,508	0	平成28年度より繰り越し
4. 雑 収 入	100	4	-96	預金利子
合 計	2,271,608	2,285,012	13,404	

【支出の部】

(単位：円)

項 目	本年度決算額	本年度予算額	比較増減	付 記
1. 会 議 費	285,000	271,848	-13,152	
(1) 総 会 費	100,000	97,010	-2,990	交通費・資料等
(2) 理 事 会 費	55,000	51,810	-3,190	交通費・昼食代
(3) 監 査 会 費	20,000	15,970	-4,030	会場費・交通費等
(4) 幹 事 会 費	110,000	107,058	-2,942	交通費補助・会議費等
2. 業 務 費	400,000	380,300	-19,700	
(1) 旅 費	380,000	380,000	300	全連退、東北大会(山形) 他
(2) 慶 弔 費	20,000	0	-20,000	慶祝・弔意
3. 事 務 費	181,000	210,873	29,873	
(1) 通 信 費	40,000	34,244	-5,756	会報等送料 発送用具等
(2) 消 耗 品 費	15,000	38,286	23,286	紙 封筒 インク等
(3) 雑 費	8,000	13,376	5,376	筆耕料・謝礼 他
(4) 事 務 局 費	43,000	49,976	6,967	事務局通信費、コピー、印刷費等
(5) 事 務 手 当	75,000	75,000	0	5,000円×15人分
4. 事 業 費	817,000	780,306	-36,694	
(1) 教育懇談会費	60,000	60,000	0	3郡市へ(各20,000円)
(2) 秋季研修大会費	80,000	88,862	8,862	会場費・講師謝礼 資料等
(3) 調 査 費	5,000	7,000	2,000	調査等に係る経費
(4) 会 報 印 刷 費	220,000	260,280	40,280	県会報印刷代(2回)・関係資料代
(5) 郡市連絡協議費	70,000	109,840	39,840	郡市総会・郡市研修会への派遣費
(6) 郡市研修活動費	142,000	142,900	900	郡市へ100円×納入者数(1,429人)
(7) 「教育の日」活動費	25,000	31,614	6,614	あきた教育の日関連活動費
(8) 郡市会長会会議費	85,000	79,810	-5,190	交通費・会場費・懇親会補助等
(9) 記念事業準備金	50,000	0	-50,000	特別会計へ(節目の年の記念紀要作成等)
(10) 東北大会準備金	80,000	0	-80,000	特別会計へ(6年周期東北秋田大会用)
5. 負 担 金	588,000	602,000	14,000	全国(400円×1,455人)・東北2万
6. 予 備 費	608	0	-608	
合 計	2,271,608	2,245,327	-26,281	

平成30年度 収 支 予 算 書

収入総額 2,169,785円
 支出総額 2,169,785円
 差引残額 0円

【収入の部】

(単位：円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	付 記
1. 負 担 金	2,130,000	2,130,000	0	1,500円×1,420人
2. 特 別 協 賛 金	0	0	0	
3. 繰 越 金	39,685	141,508	-101,823	平成29年度より繰り越し
4. 雑 収 入	100	100	0	預金利子
合 計	2,169,785	2,271,608	-101,823	

【支出の部】

(単位：円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	付 記
1. 会 議 費	245,000	285,000	-40,000	
(1) 総 会 費	100,000	100,000	0	交通費・資料等
(2) 理 事 会 費	55,000	55,000	0	交通費・昼食代
(3) 監 査 会 費	20,000	20,000	0	会場費・交通費等
(4) 幹 事 会 費	70,000	110,000	-40,000	会議費等
2. 業 務 費	320,000	400,000	-80,000	
(1) 旅 費	300,000	380,000	-80,000	全連退、他
(2) 慶 弔 費	20,000	20,000	0	慶祝・弔意
3. 事 務 費	201,000	181,000	20,000	
(1) 通 信 費	45,000	40,000	5,000	会報等送料 発送用具等
(2) 消 耗 品 費	29,000	15,000	14,000	紙 封筒 インク等
(3) 雑 費	8,000	8,000	0	筆耕料・謝礼 他
(4) 事 務 局 費	44,000	43,000	1,000	事務局通信費、コピー、印刷費等
(5) 事 務 手 当	75,000	75,000	0	5,000円×15人分
4. 事 業 費	812,000	817,000	-5,000	
(1) 教育懇談会費	80,000	60,000	20,000	4郡市へ(各20,000円)
(2) 秋季研修大会費	50,000	80,000	-30,000	会場費・講師謝礼 資料等
(3) 調 査 費	5,000	5,000	0	調査等に係る経費
(4) 会 報 印 刷 費	240,000	220,000	20,000	県会報印刷代(2回)・関係資料代
(5) 郡市連絡協議費	70,000	70,000	0	郡市総会・郡市研修会への派遣費
(6) 郡市研修活動費	142,000	142,000	0	郡市へ100円×納入者数(1,420人)
(7) 「教育の日」活動費	90,000	25,000	65,000	あきた教育の日関連活動費
(8) 郡市会長会会議費	85,000	85,000	0	交通費・会場費・懇親会補助等
(9) 記念事業準備金	50,000	50,000	0	特別会計へ(節目の年の記念紀要作成等)
(10) 東北大会準備金	0	80,000	-80,000	特別会計へ(6年周期東北秋田大会用)
5. 負 担 金	588,000	588,000	0	全国(400円×1,420人)・東北2万
6. 予 備 費	3,785	608	3,177	
合 計	2,169,785	2,271,608	-101,823	

平成30年度 秋田県退職校長会役員一覧

会員数1,665名 (内名誉会員 233名)

◆ 県 事務局所在地 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 秋田大学教育文化学部同窓会「旭水會」内 TEL/FAX 018-831-2783

顧問	佐藤 重義・千葉 昭				
会長	佐藤 俊彦			副会長	小林 茂・佐藤 磯男・高橋 俊一・高橋 一郎
常任理事	佐藤 磯男・渡部 晟・佐川 眞理			理事	各郡市から各1名(但し、秋田市から3名)下記のとおり
監事	望月 伸哉・齊藤 正博・柿崎 清				
事務局長	長澤 公生			副事務局長	佐藤 淳
幹事	松田 行正・伊藤 栄二・大山 重幸・鶴田 悦子・三條 正弘・加賀谷宗篤・米澤 喜彦・藤原 茂 高橋ゆり子・鎌田 寿和・阿部 英子・加賀美俊一・杉沼 誠・平塚 和博				

◆ 郡 市

退職校長会名	会員数	会 長	副 会 長	県 理 事	代 議 員
鹿 角	84 (7)	石井 勲 0186-23-2363	吉成 博雄	石井 勲	望月 伸哉・吉成 博雄
大館北秋田	255 (41)	小林 茂 0186-62-9247	武田砂代子・仲村 吉光 小笠原友行・小林 敏明	小林 茂	小林 茂・武田砂代子 仲村 吉光・小笠原友行 小林 敏明・佐藤 久生
能代市山本郡	186 (17)	蓮沼 匡 0185-54-7871	清水 義孝・高畑 勉 佐藤 道代・工藤 誠	蓮沼 匡	清水 義孝・高畑 勉 佐藤 道代・工藤 誠
男 鹿 市	60 (9)	佐藤 磯男 0185-24-4643	小笠原守子・伊藤 章	佐藤 磯男	小笠原守子・伊藤 章
潟上市・南秋田郡	75 (10)	渡部 晟 018-873-4994	伊藤 薫・齊藤 正博	渡部 晟	伊藤 薫・齊藤 正博
秋 田 市	268 (36)	佐藤 俊彦 018-863-0148	高橋 一郎・佐川 眞理	佐川 眞理 伊東 徹助 加藤 豪之助	眞井田恭雄・羽川 誠 濱田 眞・齊藤 孝雄 高田 均・林崎 勝
由利本荘・にかほ	212 (28)	小川 征司 0184-22-3830	伊藤 孝紀・柴田鐵四郎 安倍 武義・工藤ミネ子 櫻井 茂和	小川 征司	安倍 武義・工藤ミネ子 櫻井 茂和・佐藤 清和
大曲仙北	202 (43)	武田 覺 0187-62-0172	後松順之助・渡邊 義實 柴田 政幸・千田 文和	武田 覺	後松順之助・渡邊 義實 千田 文和
横 手 市	200 (29)	高橋 俊一 0182-32-5395	佐藤 民男・古関 俊勝	高橋 俊一	佐藤 民男・古関 俊勝 石川真須夫・永沢 敏昭
湯 沢 雄 勝	123 (13)	佐藤 朋夫 0183-43-2264	岡 光・大山裕一郎	佐藤 朋夫	佐藤 朋夫・大山裕一郎 滑川 道彦

郡市総会に参加して

―各郡市会員の声―

鹿 角

青春のはじまり

佐藤 亨

退職して二年目、初めて総会に参加させていただきました。たくさん先輩に囲まれ、これまで様々なことで支えていただいたことを痛感しました。

さて、五行説によると季節には色があり、春は青、つまり青春となります。参加されている先輩の皆さんは、何らかの形で社会に貢献されており、その姿はまさに青春そのものでした。私のこれからの人生も、青春のはじまりにしたいと思い抱いた総会でした。

終わらない旅の一步

安保 範子

五月二日に行われた総会から、新会員としてお仲間に入れていただきました。総会、懇談会と続く中で、諸先輩の皆様方からは、第一線を退かれてもなお教育に対する変わらぬ情熱とこの職への使命感をご教示いただきました。四月以降、少なからず「退職Ⅱ終わった人」という虚脱感を持っていた自分を恥ずかしく思うと同時に、これからの人生の道筋に光をいただいたように思います。

この会の一端に名を連ねる重みをかみしめつつ、お世話になった学校や地域に貢献できることを少しずつ探っていききたいと思っています。

大館北秋田

新くこれから

山田 俊逸

年度末に頂戴した「ご案内」から、とても待ち遠しく思えた四月二十一日。錚錚たる顔ぶれの載る会員名簿を目の当たりにして、緊張の中迎えた総会。二百五十四名もの会への仲間入り、十五名の新会員のひとりとして、改めてこの会の重みを感じることができました。そして、少しばかり肩の荷が下りた中で始まった懇親会では、懐かしい、楽しいひとときを過ごすことができました。これからたくさんお世話になるであろうこの会の未来に思いをはせて、会場をあとにいたしました。

総会に参加して

渡邊 一夫

新入会員紹介でステージの上から会場を見渡すと、お世話になった皆さんの先生方のお顔に、懐かしさと身の引き締まる緊張を覚ええました。と同時に「早いなあ、もう退職校長会への仲間入りか」との実感も少しずつ湧いてきておりました。

懇親会では、先輩諸氏による心温まる励ましの言葉、退職後の人生設計や注意点などについて、とてもきめ細やかな指導助言をいただきました。もっともつと聞きたいと思えるほどの充実した内容に、楽しい時間があつという間に過ぎ去りました。

能代市山本郡

総会に参加して

佐藤 勝明

新入会員として総会に参加させていただきました。お世話になった多くの先輩の前で新入会員として紹介を受けました。新たな会員の始まりとして、身が引き締まる思いがしました。

懇親会では恩師・諸先輩とお話ができ、若かりし頃に受けた、貴重なご指導・ご助言を改めて思い返すことができました。また、今後の時間の使い方に参考となるお話も聞かせていただきました。

すべての先輩方へご挨拶ができなかったのは少し残念でしたが、次回の退職校長会を楽しみに感じられる一日となりました。

総会に参加して

渡邊 清彦

四月二十六日、新入会員として総会に参加しました。会場には現職時代にお世話になった先輩方がたくさんおられ、とてもなつかしく、また身の引き締まる思いでした。

研修会では教育公務員弘済会の川田浩三氏より「相続について」の講話を聞きました。興味ある内容でしたが、手続き等が複雑で、後で整理して考えてみたいと思いました。

研修会後の懇親会では、先輩方からねぎらいの言葉や退職後の生活へのアドバイスをいただきました。ありがとうございました。参加者からたくさんの方の元気をもたらす良い機会となりました。

男鹿市

総会に出席しての感慨

今津谷 勉

退職して早十五年の歳月が経過した。役員構成では二番目の年上なので、後進に道を譲るために、総会で理事を退任した私に感謝状が贈呈された。たいした仕事をしなかったので頂いてよいか恐縮した次第である。

出席者に九十歳を超えた三名の大先輩がいた。いずれも矍鑠としていて意欲をもって人生を謳歌している姿に感銘を受けた。私がその歳になるまでには、あと十五年以上ある。果たして私にできるだろうか。朝に発意、昼に実行、夕に反省、夜は感謝で眠るを目標に限りある命を日々精一杯生きたいと思う。

思い出いっぱい寒風山

武田 直

市退職校長会総会で、寒風山を題材とした講演があった。寒風山は一年生の遠足で山頂から眺めた日本海と八郎潟の素晴らしさは、今でもよく覚えている。その後も児童を引率しての模型飛行機大会等、思い出いっぱいの山であった。

志賀重昂という学者が寒風山に上って、景観の素晴らしさを語ったことが、いつの間にか世界三景として独り歩きして、男鹿市内には、「世界三景・寒風山」という看板が数箇所に立てられている。そうあって欲しいという地元の人々の願いが込められている。

潟上市・南秋田郡

総会に参加して

伊藤 薫

五城目町人権擁護委員の石井正先生を講師に、「インターネットと人権―加害者にも被害者にもならないために―」という演題で話していただきました。人権擁護活動には、四つがあるそうです。①人権啓発②人権相談③人権救済④自己研鑽。今回中心に話されたのは、①の中の「人権教室」についてです。近年は、コミュニティサイトに高校生の関心が集まり、五城目高校一年生を対象に実施された大変有意義なものでした。普段人権について考えることがなかった私にとっては、目から鱗が落ちる研修会となりました。

研修の機会として

小松 睦子

昨年は出席できなかったため、今年度の総会参加が、私にとって退職校長会への正式的な仲間入りとなりました。大先輩の方々とテーブルを囲み、自然と背筋が伸びました。

研修会では、人権擁護委員として活躍されている石井正先生から、その重要な任務と多岐にわたる活動内容について伺いました。啓発活動の他、近隣トラブルや職場のセクハラ・パワハラ、児童・高齢者虐待への対応など、あらゆる年齢層・立場の人のために日々尽力されていることに尊敬の念で一杯でした。今後もうこうした研修を重ねたいと思います。

秋田市

総会に参加して

高橋 ゆり子

いつお会いしても、秋田市退職校長会の先輩方は生き生きと元気です。今回も、今の教育に関心をもって、学校現場や子どもたちに思いを寄せる姿に圧倒されました。

講演では、廣嶋徹氏から秋田大学教職大学院で学ぶ若い人たちが、秋田型の教育に誇りをもち、積極的に受け継ごうとしていると伺いました。次代を担う秋田の子どもに本物の学びを伝えてくださることに期待しています。総会への参加は、先輩の熱い思いに刺激を受け、後輩に夢を託す、実り多い幸せな日となりました。

秋田市退職校長会総会に参加して

佐藤 淳

勤務校から事故などの連絡もなく、平成三十年三月三十一日(土)が過ぎ、無事に退職することができたと実感したものの、四月二日(月)からは第二の職場での勤務が始まり、退職というより異動したような気分でした。そんな少し憂鬱な思いを引きずったまま、四月二十八日(土)、秋田市退職校長会総会に参加しました。総会や懇親会で、たくさんの先輩の元校長先生方とお話をさせてもらって、不思議な元気をいただくことができました。内館牧子著『終わった人』が一人もいない秋田市退職校長会に、感嘆する思いです。

由利本荘・にかほ

総会に参加して

佐々木 公

由利本荘・にかほ退職校長会総会に初めて参加させてもらいました。緊張気味に参加したのですが、諸先輩方から笑顔で温かく迎えてもらい、ほっとしました。

研修会では、今年由利小学校を退職した校長先生から、「外国語教育強化拠点校としての取組」という発表がありました。年齢を重ねられても、現代の教育の潮流を学ぼうとする先輩方の真摯な姿勢に心を打たれました。私も先輩方の姿勢を見習い、微力ではありますが、退職校長会のために尽力していきたいと感じた次第です。

総会に参加して

佐々木 照子

新入会員として総会や懇親会に参加し、温かく迎えていただき感激いたしました。退職前に会長より、定年退職を労うお言葉と退職校長会への入会案内のお誘いのお便りを頂戴しました。総会では、地域の中で退職校長としての役目を担う務めがあることを改めて感じました。現職の頃、退職校長の方々に学校経営への助言や校外学習、書写指導等でお世話になってきました。今後は、退職者としての立場から、会員の皆様方と共に、地域や学校とのつながりを大事にして自分のできることで関わっていききたいと思います。

大曲仙北

玉穂会新人生として

加藤 功

現役終盤あたりから様々な機会に諸先輩方のお誘いを受け、加入させて頂くことにしました。総会当日、53回目、たくさんの先輩会員で構成されている会であることを改めて知り、大きな緊張が走りました。武田会長のご挨拶、慶祝、新入会員紹介と厳格な中にも温かい雰囲気が進められましたし、事業内容等についても知ること少し緊張は解けました。また、金子俊隆先生の研究発表には脱帽でした。

さらに、新人生にも関わらず、事務局幹事を仰せつかりました。微力ではありますが精一杯努めさせて頂きます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

玉穂会総会に初参加して

井上 一彦

4月20日、玉穂会総会に参加しました。いただいた会員名簿に目を通すと、生年月日からすると一番ヘエエの会員となったようです。

これまで県南教育懇談会や玉川先賢彰徳行事等に参加して、お名前を承知している大先輩方に久々にお会いした感じがしました。

その大先輩方の前で新会員として紹介していただき、改めて「玉穂会加入」そして「定年退職」ということを実感したのも事実です。かつての上司K先生の講話、我が仲人さんT先生からのお土産CDに感謝の日でした。

横手市

総会に参加して

加賀谷 孔作

退職して4回目の支部総会となりました。今年度は、総会後に行われる「共助組織保呂羽地区自治会の取り組みについて」と題した佐藤克男氏（元醍醐小学校長）のご講話を楽しみに参加しました。

というのは、現在の私が、地元（金沢）の地域づくりの委員となつて活動している状況だからです。講話では、保呂羽地区自治会会員の方々が、自分たちの手でこの地区をよくしていこうという考えで活動している実践例が、とても参考になりました。

懇親会では、新会員のみなさんやお世話になった校長先生方から退職後の近況や日常をお聞きすることができ、とても有意義で楽しい時間を過ごすことができました。

旭交会総会に参加して

吉田 聡

三月で退職し、旭交会会員として初めての総会に参加しました。大先輩の皆様方がお元気に過ごされている様子がうかがえて、人生これからだ、と改めて感じました。

報告や協議が終わり、ご講話は共助組織保呂羽地区自治会の取り組みについての佐藤克男先生のお話でした。高齢者地域におけるよりよい共助の在り方や交流の在り方、活性化のためのプランづくりなど、地域のリーダーとして活躍中であることに大変感銘を受けました。地域のことにまるで疎かった自分を反省し、できる事から始めたいと思いました。

湯沢雄勝

第四十回萌友会総会に参加して

寺田 薫

この三月末で退職し、退職校長会に入会させて頂きました。よろしくお願い致します。現職の時とは異なる緊張感や感慨をもって第四十回という節目を迎えた総会に参加しました。現職を退いてからも様々な形で教育に関わったり、教育の動向に識見をもたれている諸先輩に対し尊敬の念を強くしました。

懇親会では新入会員を温かく迎えていただきました。諸先輩の、好奇心旺盛に新たな人生を切り開き、楽しんでいるお話を拝聴し、自らの今後を充実させる大きな示唆をいただきました。ありがとうございます。

「萌友会」総会に参加して

門脇 博

「今を幸せと思わないと、一生幸せにならないよ」という言葉を何かの本で読んだ記憶があります。総会に新会員として参加し、諸先輩と酒を酌み交わしながら楽しくお話を聞いていた時に、ふと思い出した言葉です。「週二回ゴルフ入れている」「海釣りもいいぞ」「ママさんコーラス、指導してる」などなど。充実した日々を楽しんでいるからこそその笑顔がそこにありました。私も先輩の先生方の生き方に学び、たくさんの方々と関わりながら、豊かな日々を送りたいと思いました。

コーナー
現職&退職 情報交流
—— 主な動きから ——

現職サイド① 県総会・退会会員感謝の会

五月十二日（土）、秋田市文化会館を会場に開催された。総会では議事に先立ち、平成三十年度の役員選出を行い、会長・副会長には次の各氏が選出された。

【小 学 校】 【中 学 校】

役職	氏名	校名	氏名	校名
会長	佐々木 哲	八橋	茜谷 英也	秋田南
副会長	七尾 尊志	明德	石郷岡仁司	秋田西
"	近藤 正実	淳城西	柴田 保	森 吉
"	今田 喜代	払戸	秋山 正毅	本荘南
"	武蔵 優紀	大曲	木口 秀一	羽後

なお、小・中学校長会長には佐々木 哲氏が選出された。

退会会員感謝の会では、退職なされた会員の方々を囲んで、これまでのご労苦を労うとともに、参加者全員がこれまでを懐かしく語り合う楽しい会となった。

なお、今年度退職を迎えられた会員は全県で七十七名であった。

現職サイド② 秋田県小・中学校長研究大会

表記の会が次のような日程・概要で開催される運びである。



日時 平成30年8月21日（火）
会場 秋田県総合教育センター・秋田県自治
研修所
主題 「未来に向かって夢はばたかせ、たく
ましく生きる児童生徒の育成」

右記テーマのもと、午前は開会式及び講演
会、午後からは小学校4分科会、中学校3分
科会が行われる。

講演 演題『地域と共に歩み、
そして生きる』

～変わらぬ味を守り続けて～（仮題）
講師（株）花善
代表取締役社長 八木橋秀一氏

退職サイド 郡市長・事務局長合同の会
日時 平成30年7月7日（土）

会場 秋田市 協働大町ビル
協議 (1) 郡市退職校長会の問題点とその対
策等

(2) 第46回東北地区退職校長会協議会
秋田大会（兼）第40回秋田県秋季研
修大会について（16項に記載）

(3) あきた教育の日について
(4) 秋田県退職校長会結成50周年記念
事業について

協議から

研修大会参加者数（県副会長・理事・幹事を除く）
鹿角3名 大館北秋田9名 能代山本7名
男鹿市3名 南秋田郡・潟上市3名
秋田市10名 由利本荘・にかほ7名
大曲仙北7名 横手市7名 湯沢雄勝4名

会員のご逝去（敬称略）心からご冥福をお祈りいたします。（90号以降）

氏名	年月日	住 所
志渡 博	30・2・5	北秋田市阿仁銀山
伊藤昭二郎	30・3・28	大館市柄沢
白根 敏夫	30・3・28	大館市豊町
今立 稔	30・6・4	能代市西通町
吉原 恵子	30・5・19	潟上市天王字長沼
小野 穰	30・6・11	八郎潟町字一日市
岡本 正	30・3・30	にかほ市象潟町
千田 隆	30・4・2	由利本荘市石脇
古村 史郎	30・2・20	大仙市豊川
須藤 治孝	30・4・1	大仙市川目

煙山 果	30・2・15	横手市安田
鈴木 剛	30・3・12	横手市上内町
松川 五郎	30・3・15	横手市本町
高橋 則夫	30・3・25	横手市山内土淵
塩田 裕三	30・5・23	横手市本郷
妹尾 志郎	30・5・29	横手市赤坂
田中 順司	30・6・12	大仙市角間川町
佐藤 邦祐	30・4・27	湯沢市三梨町
大沼 文夫	30・5・15	湯沢市清水町
後藤 幾郎	30・5・22	羽後町高尾田家ノ下 （正六位）

会員の寄稿

今大切にしたいもの



鹿角 泉澤輝男

かつて、三高（高学歴・高収入・高身長）という言葉が流行った時代がありました。今、私の身体の中では別の三高（高血糖・高コレステロール）が幅を利かせています。いわゆる生活習慣病なのですが、体力を過信し健康管理を怠ってきたせいであることは間違いありません。

定期的に通院していますが、私と同様の方が結構いることに失礼ながら安心感を覚えていきます。そして、血圧の測定を納得する数値が出るまで繰り返し測る人が見られますが、気が付くと私も同じことを行っています。

幸いにも、諸検査の数値は基準値内を維持できるようになりましたが、長い間の不養生の結果でもありますので、仲良く付き合っていこうと思っています。また、この年齢で何の異常もないことが異常だろうと、都合よく勝手に判断しているところもあります。

そんなことから、今大切にしたいことは、月並みではありますが心身の健康です。そのためにも、明確な目標をもった活動をするのとがとても大切だと思っています。

現在は、市のスポーツ団体や地域づくり等

のお手伝いをさせていただいていますが、年間を通してやるべきことがあることの有り難さを感じながら過ごしています。

（平成二十六年三月退職）

我家の味噌づくり



大館北秋田 小笠原 友行

今年も五月の連休を利用して我家の味噌づくりをしました。我家での消費の為よりも、結婚して横浜に住んでいる娘が待っているの、毎月送っています。

春に畑に大豆を植えるのがスタートです。秋に収穫して棚に並べて積んで乾燥させてから、大きな木製のリング箱に、底を抜いた箱を重ねて二段にし、その内側に殻を打ちつけて殻から実を離す「豆打ち」をします。次に四角い木の枠に金網を張った手作りの「ふるい」でゴミと豆を分け、冬の間に豆選びをします。これで原料の大豆の準備が完了です。今年は一斗五升を用意しました。

何度か水を換えながら一週間程大豆を水に漬け、ドラム缶を縦に半分に切った専用の釜で煮ます。朝から火を焚き、昼頃から手回しの「すりつぶし機」に入れて豆をすりつぶします。これが一番人出のいる行程で、息子や孫を総動員します。翌日まで置いて冷ましてから、買って置いたコウジと塩と煮汁を混ぜて少しずつ樽に投げ入れます。更に塩を振

り、笹の葉を敷き、フタをして重しの石を乗せ、フタの周りに小石を置けば仕込みは完了。あとはじっくり二年ほど熟成を待つだけです。

昭和三十年代に用意した道具を使い、当時のままにやるのが我家の味噌づくりです。

（平成二十一年三月退職）

精力善用



能代市山本郡 今立 孜

ごく最近の話。中学校の「心の相談員」を勤めている家内が、帰宅して私に話したことである。放課後、剣道部の練習を見ていたら男の先生に話しかけられた。「剣道と柔道（家内もずっと柔道に親しんでいることを知っていた）は何か関係があるんですか。」と聞いてきたので、家内は「柔道にも“形”の中に刀を用いるものがいくつかあるので。」と答えたという。

そこで、私の考えを家内に話した。柔道の創始者嘉納治五郎は「精力善用」を「自我共栄」と共に世界中が平和になる道を柔道の修行の目的として説いた。前者は、個人が持つエネルギーや能力、技術等を「最善有効活用」する道である。例えば、剣を用いて自分の力を善い事に、善い方法（換言すれば最小の力で最大の効果を生む方法）を修得し生かすことが「精力善用」である。この図式を人

間生活のあらゆる方面にあてはめることができる。料理人は包丁の使い方、ペンを持つ人はペンの力を磨いて、世のため、人のためになることに努めれば、それが柔道を修行していることになる。と喝破している。嘉納の柔道哲学偉大なるべし。停年退職後十年を経た今日、子どもたちと一緒に柔道衣を着て道場に立てる幸せを味わっている。

(平成二十年三月退職)

パワーをもらい



男鹿市

村 木 康 子

若い頃、趣味で硬式テニスをやっていた。主人やその仲間、私の友達といったメンバーの集まりであった。スコートをはき、テニスコートを走りまわっていた遠い昔のことである。今はもう体力がついていけないので、もっぱらテレビでの観戦である。

日本の錦織選手には頑張つてほしいと応援している。が、私の一番のお気に入りの選手は、スイスのロジャー・フェデラーとスペインのラファエル・ナダルである。フェデラーは三十六歳、ナダルは三十一歳と共に年齢的には全盛期を過ぎている。二人共世界ランキング一位の時代があった。しかし、怪我をしたり不調だったりして、ファンの間でも再起は不可能かと言われていた頃があった。そんな二人であったが、ここ二・三年の大会では

技術をさらに進化させ優勝回数を増やし、再び世界ランキング一位・二位に返り咲いている。現状に甘んじることなく常に努力し、技術を向上させている二人の姿に、私は希望とパワーをもらっている。

五月下旬に行われる全仏オープンテニスで二人の姿を見るのが今からとても楽しみである。できれば二人の決勝戦になるといいなと思っている。両者を応援し、素晴らしいプレーに大きな拍手を送りたい。

(平成二十六年三月退職)

再会くはがきと生きがい



潟上市・南秋田郡

保 坂 廣治郎

全国退職教職員生きがい支援の刊行小冊子「悠々ライフ」が届く。その特集ページ「に残ることば」で森信三先生と再会する。

遠い日、二十二才、新卒かけ出し教師のある日、昭和随一の教育哲学者であり、みちのく行脚の先生の講話を拝聴する機会に恵まれる。その折不思議な邂逅となり、個人的に直接話しかけられた私。「真の教師たるは担任した縁ある子と終生交流できる教師であってほしい。それには机上にいつも葉書を置き、成人した教え子とのつながりに活用するようお願いしたい。」こうした趣旨の要望、伝言が教師一生の牽引力、生き方の底流となり、これまでも、今も実行している私。

二十年間担任学級では作文教師だった私は文集名で彼らと呼び、いま社会人となり、それぞれに在所に立つて生きる日、クラス会でまた思わぬ再会ドラマに遭遇し感激する。机上のはがきにはよく時折手を伸ばし、疎遠がちな子に消息をたずねる。返信にも心がける。

先生の語録「人間は一生のうち逢うべき人に必ず会える。」私は教え子から多くの幸せを、が私と出会った人に私がと考えると忸怩たる思いにとらわれる。

(平成四年九月退職)

歌に生き 愛に生き



秋 田 市

嵯 峨 光 雄

北秋田市の女性会員から頂いた年賀状に、「今も現役で好きな音楽にたずさわって、すばらしいですね。」の添え書きがあった。

音楽とは男声合唱のことである。

秋田大学エコークラブで男声合唱団に所属してから六十余年。ずっと歌い続けており今の秋田男声合唱団は7団目である。

退職の年、ほぼ休団状態だった男声合唱団を再編成して、本格的な団を創立した。

メンバーは四十六人。今年は創立二十年で大人数の男声合唱団として活動している。昨年は十ステージをこなした。定期演奏会

や市・県の合唱祭参加は例年の行事であるが、特に昨年は大行事が重なり大変だった。全国規模のねりんピックは本番を含めて練習が8回。青森県八戸市で行われた日本男声合唱フェスティバルへも団として参加し、全国の仲間と歌い合唱を披露した。

男声合唱の魅力は重厚なハーモニーと繊細かつダイナミックな旋律に集約される。と同時に男だけの集まりの気安さも魅力である。また、声を出すことは健康にすこぶるよいことは周知の事実である。ただ、傘寿を過ぎ、合唱活動にやや負担を感じているのも事実。

表題は、歌劇「トスカ」のアリア。「愛」は男女のことではなく、お互いが助け合って美しいハーモニーをつくりだす「人の輪」と捉える。それが私の生きがいでもある。

(平成十年三月退職)

『ふるさとを知る喜び』



由利本荘・にかほ
工 藤 ミネ子

学校を退職した次の日から本荘郷土資料館に六年間勤務した。職名は資料調査員である。郷土を学ぶ学習施設として、歴史・文化・民族等の展示を行い、学校との繋ぎの役目が私にできることであった。在職時、学校経営の柱に「ふるさとのひと・もの・こと」に学ぶがあつたし、個人的にも興味があることなので違和感なく取り組むことができた。

中でも心に残るのは二つの企画展である。

家庭科専攻でしたから、四年目の企画展「衣服からみた暮らし展」今に生きる知恵と機能美の魅力」と題した企画展を受け持ち、野良着、本荘刺し子の資料収集・展示はやりがいがあった。また「由利本荘ひな街道」の企画を受け持ち、城下町であり、北前船寄港地本荘の古い雛や雛道具について調べ、知り、広めることを六回担当したことは貴重な体験であつたといえよう。この六年間で次の二つのことを強く感じた。

一つは、子どもたちにふるさとの歴史をもっと深く学ばせる必要を痛感したことだ。

二つ目は、あらためて多くの「人」と出会い、多くの「もの」(文化財)に触れ、多くの「こと」(伝統行事)を見聞きできたことである。「知る喜び」を実感した日々であつた。

(平成二十三年三月退職)

地域のステージで



大曲仙北
枝 川 宏 子

退職後のステージは地域。アメシロ薬剤散布で業者の案内をして町内を回つたら改めて空き家、空き地、元気な高齢者宅が増えていくことを実感した。また待町のたたずまいを残した屋敷のモミの木群はじめ各家々の季節を彩る庭木や花に満ちていることを再発見し

た。角間川では国登録有形文化財指定の旧本郷家等を拠点とした歴史まちづくり事業が推進されている。ここ内町も「まち歩き」景観地として花仲間で繋がり、計画されている市民ガーデンのボランティア活動にも誘い合つて参加することでみんなが「行動人」として活躍できるのではないかと思った。

六年前生涯学習指導員として市教育委員会生涯学習課に勤務した際『行動人』―学んだことを生かして行動する人―は、キーワードであつた。携わつた生涯学習情報誌「こすもす」にも人をつくり地域をつくる「行動人」に多くの学びを得た。地域公民館の嘱託館長を務めた時は、例えば角間川盆踊り継承のよう小・中学校と結ぶコーディネーター役の存在が双方に有効であることを確認した。さて、全ての職から離れ三十年ぶりにいけばな池坊に再入門した。花を通じた交流を求めまずはお稽古中である。行動人へと成長するための一歩をこの地で歩み始めた今である。

(平成二十五年三月退職)

「初恋」の思い出



横 手 市
奥 山 澄 子

初夏、思い出す学生時代の一瞬の出来事がある。書店でツルゲーネフの「初恋」に手を伸ばし読み始めたそのとき、

「その一冊で恋が分かればいいけれど

ね・。」と、声をかけた先輩がいた。瑞々しい夏みかんのような思い出である。

初めて読んだのは中学校の図書館だった。退職後、中学生の読書指導に関わる仕事をしているが、学校図書館に居並ぶ書籍には驚かされる。「梶井基次郎さへ、イケメン」の表紙とポップには仰天。現在の学校図書館は、軽快・明快・痛快で、ワクワクする空間。重厚さ漂う文学全集は下の書棚で肩身が狭そう。

そんな中で太宰治の作品は中学生に根強い人気がある。「人間失格」の「恥の多い生涯を送って来ました。」に引き込まれた生徒。同級生にごまかしを見抜かれ恐怖する作中人物に、「偽って生きるのはやめよう。」と自分を重ねた生徒。「きりぎりす」は、女性の心象がよく表現されていると感心した生徒。生徒たちが皆、太宰の言葉の力に情感を揺さぶられたことが分かる。多感な時期だからこそ想像力がかき立てられるのだろう。

太宰の作品には常に惜別の情が漂うが、「初恋」も同様である。中学校時代の読書は、生涯、思い出の一冊になる。

(平成二十七年三月退職)



湯沢雄勝

石川 陽太郎

楽しい八人制バレーボール

「さあ、いくよー。」

「ナイスプレー。」

大きな声が飛び交うコミセンの体育館。

退職後に恩師に誘われ、八人制バレーボールの同好会に入会しました。会員は男女合わせて二十五名。水曜日と日曜日の週二日の活動です。

年齢も三十六歳から七十五歳と幅広く、私のような無職から現役ばかりの看護師さんに大工さん、幅広く野菜を作っている農家の方と仕事も様々です。

使用するビニールボールは、なかなか落ちてこないで、珍プレーも多々見られます。練習の合間には、水分補給ともぐもぐタイムがあり、自家製の漬け物やスイーツ、旬の

果物などを食べながら話も弾みます。

平日の練習日は、退職者や自営業の高齢者が主になりますが、空いている場所を見つけての攻撃は見事で、プレーに年季を感じさせます。

チーム内での私の役割は、メンバーが気持ちよくプレーできるよう、声を出して雰囲気をよくすることです。気持ちと動きに大きなズレを感じつつも、先輩方のように生き生きとした姿でいられるよう、今後とも継続していこうと考えている現在です。

(平成二十八年三月退職)

祝 叙 勲

おめでとうございます

(順不同・敬称略)

氏名	現住所	功 勞	種 類	受章日
嶺 脇 勉	北秋田市坊沢	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	30・3・1
斉 藤 強	能代市末広町	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	30・3・1
三 浦 幸 郎	能代市花園町	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	30・3・1
山 崎 照 雄	八峰町八森	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	30・4・1
蓮 沼 匡	能代市字高埴	教育功勞	瑞宝 双光章	30・4・29
小 松 一 夫	男鹿市弘戸	教育功勞	瑞宝 双光章	30・5・11
野 村 勇 一	南秋田郡八郎潟町	教育功勞	瑞宝 双光章	30・4・29
船 木 光 彌	南秋田郡五城目町	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	30・6・1
高 野 豊 昭	由利本荘市石脇	教育功勞	瑞宝 小綬章	30・4・29
佐 藤 重 治	仙北市角館町	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	30・4・1
田 口 雋 三	美郷町金沢東根	教育功勞	瑞宝 双光章	30・4・29
笹 山 賢 耿	横手市大屋新町	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	30・2・1

生きがい・充実 退職後ライフ
会員作品紹介

— 大館北秋田退職校長会 —

短歌

「野良猫」

武田 砂代子

(比内泔水短歌会所属)

土手ゆけばひ弱に見えし雑草も
三月早くもわが丈を越す
豆を蒔く日取りを問えば農婦言う
初カッコウの鳴く頃よしと
散歩道小学生が「おはよう」と
はにかみながら走り去りたり
紫陽花の葉っぱに乗りて子蛙等
震わせて談笑してる
裏庭に野良猫二匹蹲り
餌をねだりて口々に鳴く

油彩画 「穂高・朝の輝き」 浅野 英徳



第29回「上野の森美術館・日本の自然を描く展」(2016年) 入選

植物画 (山野草)

佐々木 忠治

「チシマギキョウ」

(ユリ科)

2012年8月3日

白馬岳にて

(北アルプス)



「エゾコザクラ」

(サクラソウ科)

2016年8月1日

羅臼岳にて

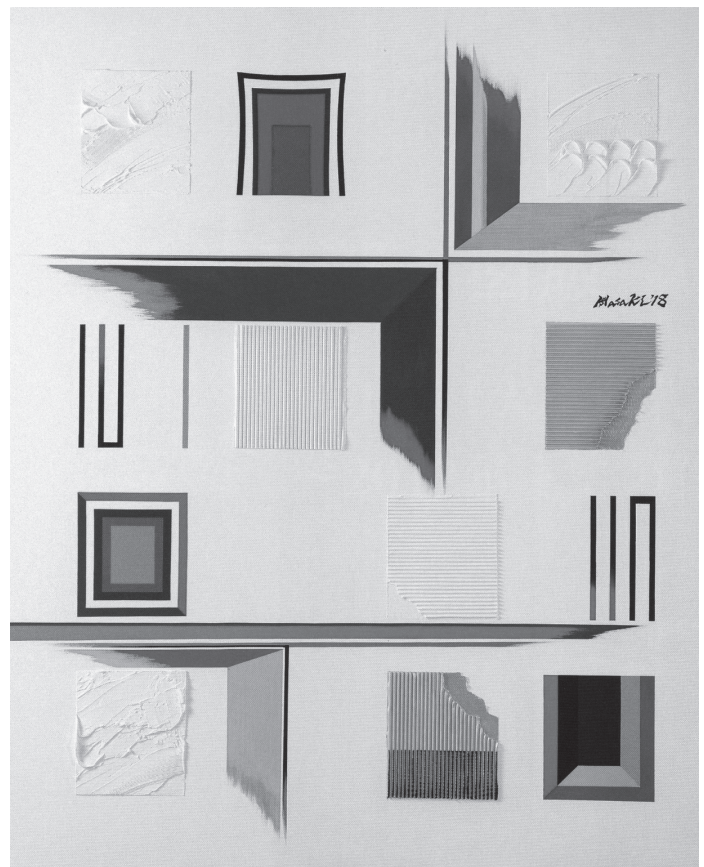
(知床半島)



モダンアート

「DNA編集」

佐々木 久隆



2018年度モダンアート展出品作品

佐々木久隆作品集「創作半世紀の奇跡と展望」より (2018年6月発行)

※「佐々木久隆50年展」2019年6月開催予定 秋田県立美術館にて

「うごく羽後中生」



羽後町立羽後中学校
校長 木口 秀一

羽後中学校は、今年度統合三年目を迎える町内唯一の中学校です。

今年度のスローガンは、
一 笑顔 よろこび しなやかさ
二 うごく羽後中生

三 楽しもう「今」、育てよう「やがての力」です。「やがての力」とは、羽後中学校で学ぶ全ての活動が将来社会人となったときに生きて働く次の四つの力（キャリア教育で育てる基礎的・汎用的能力）です。

一人とうまくつきあう力

（人間関係形成・社会形成能力）

二 やればできると思える力

（自己理解・自己管理能力）

三 課題を見つけて解決する力

（課題対応能力）

四 今の学びを将来と結びつける力

（キャリアプランニング能力）

羽後中学校では、教科などの学習と同じように、全教育活動を通じて「やがての力」の育成を図っています。

「うごく羽後中生」の意味するところは、

「やがての力を使っ

て、誰かの笑顔や誰かの喜びのために、ひた

りつめています。

「うごく羽後中生」

の意味するところは、

「やがての力を使っ

て、誰かの笑顔や誰かの喜びのために、ひた



西馬音内盆踊りクラブ（お囃子）

現場・息吹……

学校紹介

— 羽後町立羽後中学校 —

むきに行動する羽後中生」ということです。つまり、「世のため、人のためにがんばる羽後中生」です。

また羽後中生は「自分から聴こう、自分から話そう」という生徒が考えた学びのスタイルで学習しています。「全ては自分が源」です。羽後中生一人一人がそのことを自覚し、真の「うごく羽後中生」となるべく日々がんばっています。

羽後中学校は常にO・P・E・Nな学校です。いつでもどなたでもご来校いただけるよう努力してまいります。保護者の皆様と地域の皆様、そして学校が連携して生徒を育てていくことがとても大切だと考えております。羽後中生の頑張る姿が皆様に元気を与えられるような学校を作っていきたいと思ひます。

統合により様々な制服、様々な体育着が混ざり合っていた羽後中生も今年から全て同じに統一されました。

これからが統合本番です。生徒自身、保護者や地域の皆様

が「統合してよかつた」と感じていただ

ける「融合羽後中」

を目指します。皆

様、ぜひ羽後中にお

気軽にお出かけくだ

さい。お待ちしております。

ります。



体育祭 (5/23)

第四十六回 東北地区退職校長会 協議会 秋田大会 兼 第四十回秋田県秋季研修大会

〈開催案内〉

1 日時

【一日目】平成 30 年 10 月 18 日（木）
受付開始 10 時 30 分、

【二日目】平成 30 年 10 月 19 日（金）
情報交換会 9 時、

2 会場 秋田ビューホテル

3 協議題

「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」

4 日程

【一日目】

(1) 開会行事 13 時 20 分～13 時 40 分

(2) 講話 13 時 50 分～14 時 50 分

(3) 話題提供（福島・宮城・山形の三県）

(4) 理事会報告 15 時 00 分～16 時 20 分

(5) 親睦懇親会 16 時 20 分～16 時 30 分

(6) 17 時 00 分～19 時 30 分

【二日目】

(1) 情報交換会 9 時 00 分～10 時 10 分

(2) 閉会行事 10 時 15 分～10 時 30 分

※会場の収容人員のこともあり、人数に制限のある大会となっておりますが、後日情報誌等で大会の概要をお伝えしたいと思います。

【あとがき】

◇仕事上、いち早く御寄稿くださった皆様の文章を拝見できるのことの幸せを感じております。秋田やその地域のよさを再発見するとともに自分の生き方を振り返る機会にさせていただきました。ありがとうございます。ありがとうございます。今後ともよろしく願いいたします。

編集委員長